



No.027

能登北部地域医療研究所

のとけんだより

金沢医科大学
能登北部地域医療研究所



2016.8.17

あなみず地域医療塾2016

～ 日本が抱える50年先の地域医療の課題を実体験・看取りのあり方を多職種で考える ～



主催：金沢医科大学能登北部地域医療研究所
公立穴水総合病院・穴水町



総務省の統計によると、2014年9月15時点の推計で日本の65歳以上の高齢者人口は3,296万人で、全人口の25.9%を占めている。また、全人口のおよそ8人に1人が75歳以上の高齢者である。高齢者の人口は首都圏などの都市部を中心に今後も増え続け、2025年には65歳以上の高齢者は全人口の30%を超えると予測されている。さらに、2007年に内閣府が行った意識調査によると、国民の6割以上が終末期の療養を自宅で行いたいと回答している。これらの高齢者の人口増加とニーズの背景を受けて、厚生労働省では、住み慣れた環境で安心して自分らしい生活を送れる社会を目指して在宅医療・介護を推進している。

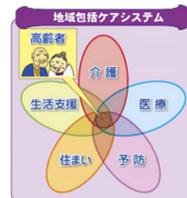
第4回目の研修会「あなみず地域医療塾2016」を含めると県内外からの参加者、スタッフは延べ350余名となった。今回の募集定員は36名であったが募集開始とともに早い時期には定員いっぱいとなった。本研修会は、チームによる多職種連携基盤型訪問診療研修となっている。大学病院や自治体中核病院、クリニックの医療従事者はもちろん、医学生や看護学生など多数参加している。本研修会を通して、超高齢社会にあっては、病院などへの移動が困難となることから“来てもらう医療”から“うかがう医療＝訪問診療や在宅医療”が、近い将来、日本が求める医療となる。あなみず地域医療塾2016が、8月6日（土）、（石川県）穴水町川島の国民保養センターキャッスル真名井で始まった。在宅医療の模擬診療体験などを通じて、7日（日）まで2日間の日程で地域医療（在宅医療を含む）の在り方を学ぶ。金沢医科大学能登北部地域医療研究所の中橋 毅所長（金沢医科大学教授）が塾長を務めていて、今年で4年目。県内外の医師や看護師、学生ら、スタッフ併せて約80名が参加した。

冒頭、中橋塾長が奥能登の高齢化率や医療の現状を説明。各班に分かれ、模擬患者の診療に出掛けたり、患者ごとの看取り態勢や急変時の対応策の議論をしたりした。

転職を目指して七尾看護専門学校で学んでいる亀井さんは「何もかも初めてなので、地域の中のお年寄りとの接し方など実践的な経験から吸収したい」と話していた。

関係各位の協力により成り立つ研修会である。本研修会をとおして生活を重視した医療・看護を肌で感じ、高齢化が進む地域での在宅医療について共に考える良い機会となったことを確信することができた。

<地域包括ケアシステム> 来るべき少子高齢化社会に向けて厚生労働省が目指しているのは、「地域包括ケアシステム」の実現です。地域包括ケアシステムとは、要介護状態になっても最期まで住み慣れた環境で自分らしい生活を送るための「住まい、医療、介護、予防、生活支援が連携した」システムのこと。



〇問い合わせ（濱中・濱崎）
能登北部地域医療研究所（公立穴水総合病院内）
]電話 0768-52-0655 FAX0768-52-0658
E-mail ccm@kanazawa-med.ac.jp
〒927-0027 石川県鳳珠郡穴水町川島タ-8